

地形・くらし

このページは、伊万里市歴史民俗資料館副館長の荒谷義樹先生のご協力で作成しました。



立岩から見た浦之崎
(色をつけた部分が干拓地・赤線は国道)

人々は、地形や土地の特徴を生かしながら暮らしてきました。海辺を干拓し、斜面を棚田として開拓し、ミネラル分の多いよう岩台地の特徴を生かした作物を栽培して農業を行ってきました。



よう岩台地は赤土です。鉄分やカルシウムなどのミネラルが多く、水はけがよいです。畑、果樹園、牧草地などに向いています。



東分と西分の棚田です。人々は斜面を少しずつ耕し棚田を作ってきました。棚田のお米は、美味しくて人気があります。棚田の風景はとても美しく、心のふるさともなっています。



棚田の石垣としてよう岩台地に多い玄武岩が用いられました。「塩俵石」と呼ばれ、今でも見ることができます。また、台地や棚田にとって大切な水を得るために、ため池がつけられました。左は黒田代池です。